

別紙2 意見等（令和2年度環境創造センター年次計画(案)）まとめ

資料 2-2

No.	頁	原案の内容	具体的な修正文書	理由	対応案
1		年次計画について		<p>県は住民の立場に立って国等が実施する事業が安全に実施されているかを確認し、住民に発信するという重要な位置に立っており、その観点から着実に調査研究が実施されることを望む。</p> <p style="text-align: right;">【井上部門長】</p>	<p>ご意見について、除染・廃棄物部門長評価、先日の部門会議等において個別課題を含めて、既に意見を頂戴しているところであり、引き続き関係機関と連携・調整しつつ、県民への情報発信も意識して調査研究を推進することとします。</p> <p style="text-align: right;">●対応：研究部</p>
2	10	(5) 流域スケールでの生物利用性放射性セシウムの動態解明圏	(5) 流域スケールでの生物利用性放射性セシウムの動態解明	<p style="text-align: right;">【塚田部門長】</p>	<p>「流域スケールでの生物利用性放射性セシウムの動態解明」と訂正しました。</p> <p style="text-align: right;">●対応：NIES</p>
3		トリチウムに環境問題は、福島県にとって重要課題の一つであると考えられる。		<p>数年前からトリチウムの分析手法に関する検討が進められているが、具体的な調査や研究が示されていない。現時点で福島県民の関心事が高い課題であり、早急な取り組みが必要ではないか。</p> <p style="text-align: right;">【塚田部門長】</p>	<p>ご意見について、センターでは県にとっての重要な課題と認識している。ご指摘のトリチウムについても、放射線計測部門を中心に調査研究に取り組んでいるところです。</p> <p style="text-align: right;">●対応：研究部</p>
4				<p>多くの課題に取り組んでいることが示されているが、結論が得られた課題は終えても良いと考える（例えば、森林火災の課題等）。一方で、3機関がリンクして新たな課題に取り組むことが必要ではないか。</p> <p style="text-align: right;">【塚田部門長】</p>	<p>ご意見について、調査研究課題の進捗に応じて適宜内容の見直しやとりまとめ等を図っているところである。新たな課題についても、例えば令和元年東日本台風による影響といった突発事象も含めて、引き続き3機関連携して、柔軟かつ積極的に対応していくこととします。</p> <p style="text-align: right;">●対応：研究部</p>
5	17				<p>重複文章を削除しました。</p> <p style="text-align: right;">●対応：企画課</p>